

平成29年度 第3回 犬山市地域公共交通会議 議事要旨

日時：平成29年10月2日（月）14時～16時

場所：犬山市役所2階205会議室

出席者：18名中18名

1 開会

【事務局】 開会の挨拶を行う。
傍聴者（5名参加）について、説明を行う。

【事務局】 代理出席、配布資料について、説明を行う。

2 あいさつ

【磯部会長】 挨拶を行う。

【事務局】 犬山市地域公共交通会議の委員数18名に対し、本日は18名が出席されています。過半数を超えているため、本日の会議が成立していることを宣言する。

【磯部会長】 議事録の署名者に宮地委員と本間委員を指名する。

3 議事

(1) 協議事項

■ 平成30年度再編（案）について

【事務局】 資料1の説明を行う。

【杉本委員】 再編のターゲットを前回示されたが、犬山市としての方向や方針を教えてください。市として負担金が増えても利便性を求めてサービス向上に努めるという決意があるのかわからない。それぞれメリット・デメリットがあるが、折衷案もある。今日、1つに絞るといいますが、軽率すぎると思う。再編時期が決まっているので、早めに絞り込みたいということであれば、市としての考え方・方針がないと、何をもって私共が議論すれば良いのか、検討していけば良いのか、ぶれてしまう。

【事務局】 A案からD案は、全て実施できるものとお考えください。第1回から示している再編におけるターゲットを達成する為に考えられるイメージ案となります。負担金が増えてでも利便性を向上させることが必要ではないかという判断の元、提示させていただいております。

【会長】 何のために再編し、何がどのように良くなったら良いのかということだと思う。例

えば公共交通で市内のどれくらいをカバーしなければならないとか、通院とか買物とか、色々な目的があるわけで、それらをどうやってカバーするのか、という点が重要だと考える。

【事務局】 まず再編を行うに当たって乗り込み調査を行い、どういった利用がされているかを把握しました。その調査の中で、利用者からは「毎日運行にして欲しい」という意見が多数ありました。再編を行うに当たっては、事前に様々なデータを採った上で、杉本委員のご発言のとおり犬山市としての方向性や方針を立て再編を進めるべきではあると考えますが、今回は現行の路線を軸とし、市民ニーズを反映できるよう再編の内容を検討していきたいと考えます。

【会長】 この再編の一番大きなところは「毎日運行を目指したい」ということであり、それに基づいて車両の台数の制約によってどれだけ路線が組めるのかというのを検討したということですね。

【飯坂委員】 C・D案にした場合、バス停がどれだけ増えるのか。市の負担も大体3割くらい増えるというのは、妥当かなと思う。その中で国庫補助が減っている理由を教えてください。今までデマンドなども考えたかどうかという案もあった。それから高齢者に対して自治体からタクシー券の補助もある。また、この委員会は、決定権を持っているのか再確認をしたい。

【事務局】 バス停については、利用者に困惑を生じさせないためにも、今のバス停位置をある程度踏襲していきたいと考えております。その中で、必要な箇所は増やし、利用者数によっては廃止する箇所もあると考えます。比較表の国庫補助金は今年度の確定金額となります。タクシー券については、所管課にも伝えております。

【会長】 この会は、2つの性格を持っており、1つ目は、ルート、バス停、ダイヤの案の最終確認。2つ目は、原案の検討を手伝うことと考える。

【古田委員】 負担金が増えても利便性を良くするというのであれば車両を増やして、利便性を良くしていただければ一番良い。例えばA案は、現行よりも所要時間も増える、本数は減るので利用者目線から考えれば消えていく。BにしてもCにしても所要時間が増える路線があるし、本数が減っているようなところもあったりする。利用者の利便性を良くするところを考えれば、A・B・C・Dだけにとらわれずにもっと考えられる。D案は2台分車両が増えるが、購入費用は市の負担金の中に入っているのか。それから基幹巡回線というのは、鉄道と競合しないと説明されたが、鉄道があるので、基幹的にしなくても良いのではないかと。基幹的にするのであれば、乗り継ぎの必要性が無いD案が負担金はかかっても利用者のためになると思う。

【事務局】 比較表には車両の購入費用は入っておらず、別途必要となります。購入にあたっては

補助申請をし、市の購入費用を削減するよう努力します。

【杉本委員】 30年度以降は補助金の考え方が変わり、実績申請となる。国としては当初多くの予算を獲得すべく努力をしているが、予算以上に要望が多く、“計画を策定しているところ”には若干多目にプラスされるというケースが多い。だからこそ、網形成計画を作ってもらおうと若干でも上積みが出来る。そういった面で、計画の策定を目指していただきたい。それから車両購入に当たっての国の補助は、基準に照らした形で補助に当たるか事前調整を図っていただきたい。前回の会議と今回の会議ではD案に対する意見が多いが、南部については、さくら総合病院とかふれあいセンターもあるので、利用者のニーズをしっかりとらえてほしい。

【会長】 交通はどこを中心として組んでいくかというので変わってくる。犬山駅は北にあるので、北部を中心として強くしていくのか、または鉄道路線が南部に長いので、南のほうも1つの拠点として考えていくのかによって色々と変わってくる。政府はコンパクトシティ+ネットワークというので、都市の土地利用と交通ネットワークは一体として考えるべきだとして進めているところだが、都市計画課はどう考えているのか。

【森川委員】 犬山市の施策では、少子高齢化・人口減少ということで、コンパクトシティがうたわれています。都市計画マスタープランの中にも中央病院周辺を新たな拠点としています。犬山駅に次ぐ拠点として、遠い将来、核となるエリアという認識の中、バス路線についても検討を進めていく必要が出てくると認識しています。鉄道の駅を中心としたところを拠点施設という位置づけのもと、犬山駅の周辺にはない役割を中央病院に近いエリアに取り入れていきたいと検討しています。他のところは、駅を拠点として進めていこうと考えています。

【会長】 将来のことも大事ですが、そういうのも見つめながら現在における拠点性を考えて、1つの大きな拠点に全部集めたほうが良いのか、小さい拠点も大事だということも考えていくかによってだいたい組み方が変わってくると思う。

【武藤委員】 コンパクトシティを本当に実現していくためには、相当な強い意志がないと出来ない。アンケートでは、「毎日運行が良い」というのが一番多いが、平日だけ毎日運行にするのか、土日も含めて毎日運行にするのか。やはり毎日運行で定時・定路線というのが一番分かりやすく良いと思う。A・B案については乗り継ぎが発生し、C・D案については直行で病院と駅まで行ける。利用者の利便性を考えたら乗り継ぎが無いほうが良い。特に高齢者の方や障害を持っている方は、乗り継ぎにものすごく抵抗を感じる。駅については、鉄道は充実していると思うが、駅まで来てそこからコミュニティバスに乗り継ぐ場合、特にバスは時間に遅れる可能性が高い。きちんと駅とバスの乗り継ぎをしていくべきと考える。

【事務局】 再編後も月曜日から金曜日の平日運行を予定しております。土日の運行をするとどれだけの費用がかかるか、土日含めた検討はさせていただいております。

【松浦委員】 私も乗り継ぎがないことと、毎日の運行と、長大な運行にならないのでD案がいいと思う。犬山は狭い道もあり、進入禁止のところは大変難しい。基本的に大きい車を走らせ、小型は2台くらいがいいと思う。小型はトヨタのハイエースが使いなくなるので、日産のMV350になる。押しボタンも付いて、コミュニティバスの小型が造られており、11人乗りのハイエースくらいの大きさであり、上限は13人乗りになる。

【会長】 徐々に集約をしていかなければいけないわけですが、大きい判断としては再編イメージDというのが中心になってくる。どういうところを拠点とするのか。特に南部地区の組み方は、鉄道駅に寄るのか寄らないのか。鉄道駅が地域の拠点なので、それぞれの地域ごとにも役に立つし、市全体にしても役に立つ路線の組み方が大事です。この会議としてD案を中心として集約できるかなと思います。

(2) 報告事項

■ コミュニティバス乗車推進事業について

【事務局】 資料2の説明を行う。

【会長】 今回は、事前の周知がなされ、ある程度利用されたとの評価。当然ながら子供は1人で行動する場合もあるし、大人たちと行動する場合もある。追跡調査に時間がかかると思うが、ある意味での地域性みたいなものが反映されてくるのではないか。小学生・中学生のデータだからといって軽視せず、活用して欲しい。

■ コミュニティバス利用促進事業について

【事務局】 資料3の説明を行う。

意見なし

■ その他

- 【古田委員】 再編D案で一応承認ということでよろしいのでしょうか。
- 【会長】 A・B・C・Dという中で、イメージのDということで改めて決めます。
以上の協議を踏まえ、平成30年度再編（案）の方向性について、D案を中心として細部を検討していくということで承認を求め、各委員より承認を得た。
- 【古田委員】 再編計画をいつ頃から実施するのか、路線をどのように決めていくのかなどスケジュールを示して欲しい。運賃も200円のままという考えでいくのか。
- 【事務局】 今後のスケジュールについては次回の会議において、提示させていただければと思います。バス停の位置やダイヤを決めていかないといけないので、出来る限り詳しいスケジュールをご提示させていただきたいと思っております。
- 【古田委員】 実際再編されるのはいつから？
- 【事務局】 再編のスタートは11月1日からを予定しております。それに向けて必要な事項をまとめて、次回の会議では提示して参りたいと思います。
- 【会長】 11月1日を前提にして、スケジュールを練っていくということ。
- 【飯坂委員】 8月は集中豪雨で道路が通れなかったところがあったが、そういう意味では、特に犬山は川も多くて橋が落ちたらそこは通れなくなる。バスが通るような交通上重要な橋梁のインフラ整備などはどこで検討されているのか。
- 【事務局】 今年8月の集中豪雨でコミュニティバスの運行に影響があったのは栗栖線であり、崖崩れがあったので、路線が寸断されました。運行事業者の協力のもと、二台体制とし、一つは栗栖方面を犬山駅に直結させ、もう一つはふれんどから折り返して犬山駅に直結させました。犬山駅で連結するという対応をしております。今後、今回被害のあった部分は路線再編の中で検討材料と考えております。
- 【飯坂委員】 14日の件は分かったが、橋のインフラはどうなっているのか。
- 【八森委員】 毎年橋梁点検を行っており、管内のところを順番に見ていくという形で、点検をしています。そこで仮に危ないということであればそれは緊急に修繕をするということになります。冠水については、この前の大雨は想定外で対応できないというのが正直なところですが、適切な管理はしています。万が一通れなくなれば通行止め等をして、迂回をしてもらうという対応となります。冠水するということは、地域排水ということで、犬山市さんも考えていってもらわないといけないかなと思いますが、最終的に流れ出るのは川ですので、一生懸命回収作業をしておりますし、なるべく安心して通行されるような管理をしていこうと思っております。
- 【稲垣委員】 今回崖崩れのあった道路は、市中心部と栗栖方面とを結ぶ重要な道路ではあったものの、安全最優先ということで3日間通行止めの対応を行いました。維持管理には相当

の費用がかかりますが、定期的に点検を行っています。法改正により、点検方法も変わり、近接目視が必要となりました。国の補助を活用しながら日々点検を実施しております。また、職員も国交省の勉強会に参加するなど、道路管理者としてスキルアップを図り、安全で安心した道路交通の確保に努めております。

【事務局】 「コミュバス通信」は、会議終了後に市民の皆さまに回覧という形で、本会議での内容等をご紹介させていただいております。本日の会議終了後に3弾として発行予定をしております。また、11月7日に市民向けの説明会を予定しております。再編の考え方、交通手段の検討経緯、今後のスケジュールなど直接市民の皆さまに説明する機会を設けます。さらにバス停位置に関する意見募集を、町会長を通じて市民の皆さまにご意見いただこうと考えております。

以上

平成29年10月27日

本書は、平成29年10月2日に開催された犬山市地域公共交通会議の議事要旨に相違ないことを証する。

署名人 宮 地 瑛 子

署名人 本 間 勇 治